

今月の法話

- 一、「仏教の教えは方便である」 二、「絶対にしてはいけない七か条」
三、「南都仏教と空海 密教的な生き方の実践」

一、仏教の教えは方便である

仏教で言われる方便とは衆生を教え導く巧みな手段や真実の処方において誘い入れるために仮に設けた教えやたとえ話です。一般には「嘘も方便」などと物事を円滑に進めるためには嘘をつくことも必要だという使い方をしますが、本来の仏教の教えは違います。

仏の教えに『妙法蓮華経（法華経）』があります。お釈迦様の晩年に解かれた集大成の教えとされます。全部で二十八の品がありますが、その中でも「方便品第二」と「寿量品第十六」はとても重要視され、日蓮宗などでは特に誦読されます。いつも唱える「観音経」は「普門品第二十五」です。今回は「方便品」の話をします。まず「品」とは「章」という意味です。方便品は如来寿量品に繋がる重要なお話です。その中で「十如是」があります。「所謂諸法、如是相、如是性、如是体、如是力、如是作、如是因、如是縁、如是果、如是報、如是本末究竟等」これはお釈迦様がこの世のあらゆる物事（諸法）の有様を「相」「性」「体」「力」「作」「因」「縁」「果」「報」「本末究竟等」という十種に分類して「如是（これのごとく）」をつけて十如是と言われます。

相とは外面の形相、性とは内面の本性、体は相や性を統一する主体、力とは体が供える潜在的な能力、作とは力が外界に現れて動作となったもの、因とは原因、縁とは因に加わり果を生じさせる関係的な要因。果とは因と縁によって生じる結果。報とは因果によって生じる結果。本末究竟等とは相から報まで真理が貫いており、すべてが平等であることを示しています。これを「諸法実相」といい、般若心経の「空」の教えや、華嚴経の「法界縁起」と並ぶ法華経の宇宙観であります。

この方便品の中でお釈迦様は「真実の教えは理解するのが極めて難しい。今までの教えはその人にとってわかりやすいように説いた方便であったのだ。」と言われた。故に「方便品」というのです。真理とは私達凡夫にとっては、難解で仏の視座に立つて初めて全貌を見渡せるものでしょう。故に、ありとあらゆる教えは方便であり、仏や菩薩も方便としてお力をお貸しくださる。私達がそれに報いるために示すことのできるものはただ「信」のみです。それをよくよく心に刻んでください。

二、絶対にしてはいけない七か条

- (一) 他人の悪口・陰口を言う人、嘘をつく人（その場の小さな嘘）
- (二) 他人の話を聞かない人（無視したり聞いたふりをする）
- (三) 自分中心に大声でしゃべりばかりしている人、せっかちな人（周囲の対する気遣いが無い）
- (四) 自分の考えは絶対に変えない頑固な人
- (五) 自分が悪くても謝罪せず言い訳ばかり言う人
- (六) 常にマイナス思考で自信がなく、また逃げてしまう人（笑顔のない人）
- (七) 何事にも感謝できず当たり前と思い謙虚な心が全く無く凶々しく傲慢な人

この中に自分に当てはまることがあればすぐにでも直してください。いくら神仏に祈っても、これらの悪因は利益を阻害し不幸を呼び込んでしまいます。逆に直せば幸運が次から次へと訪れます。

人は自分がどれだけ幸せになるかより、人をどれだけ幸せにできるのかによってその徳の高さが決まります。それは誰かが決めることでは無く、自然と良い方向へと向かっていくのです。

もし今、苦しみの中にいるのであれば、それは修行中ということですから。それを乗り越えれば道が開きます。私たちは煩惱の海に溺れ、苦しみから抜け出すことは容易ではありません。仏の教えはそこから解脱するための道しるべであります。小乗仏教では今ある生活を捨て去り、清浄な生活を歩むことで解脱への道のりを歩みます。しかし、私達にとってそれはあまりに難しい。ではどうすれば良いのか。それは心です。心を変えただけで、世界は変わります。「心造諸如来」の経文のように、心を仏・菩薩と通わせることで救いへの道を進むことができるのです。それは小さな一歩ですが、確実な一歩です。一日一日が大切なのです。何がおきるかわからない今の世の中だからこそ、この瞬間を大切に、祈りと感謝を忘れないようにしましょう。

三、南都仏教と空海 密教的な生き方の実践

本年は弘法大師空海の生誕一二五〇年の年ということで、真言宗の各寺院では法要が営まれています。東大寺には空海の開かれた真言院という塔頭寺院が存在し、毎年四月二十一日には御影供を勤修しております。

空海は宝亀五年（西暦七七四年）六月十五日に現在の香川県善通寺市にお生まれになりました。俗名は佐伯

真魚。この頃は平城京での政治は限界を迎え、長岡京へと遷都し、平安京へと繋がるまさに政治の激変期でもあります。十五歳になった真魚は都(長岡京)へと上り、叔父の阿刀大足に『論語』を始めとした儒教、老荘思想といった中国思想を学びます。それが当時、出世するために必要な教養であったためです。しかし、真魚の才能は官僚としての出世にとどまるようなものではありませんでした。ある時一人の修行者から「虚空蔵求聞持法」を教えられたのです。これは虚空蔵菩薩のご真言を百万遍唱えるというもので、言うは易し行は難しの難行です。

虚空蔵菩薩ご真言 「おん ばざら あらたんのう おん たらく そわか」

これは密教の修行法であり、実は空海の入唐以前にも密教経典は日本に入ってきていました。その発露が三月堂の不空羅索観音であり、二月堂の修二会でもあります。空海は高知県の室戸岬にて一心に修行に邁進し「谷響きを惜しまず。明星来影す。」という体験を得ます。(『三教指帰』序文)その後二十歳にして得度し、僧侶空海としての人生を歩むこととなります。

空海が得度したのはもちろん奈良・東大寺の戒壇院。当時は南都六宗がその権威を誇っていた頃で、南都六宗とは「華嚴」「法相」「三論」「俱舎」「成実」「律」を指します。これらの教えがその後の空海の教えの下地となったことは間違いありません。

空海は入唐し、恵果阿闍梨に師事。密教の灌頂を受け、遍照金剛の灌頂名を授かります。帰国後は真言密教を日本に広めていきますが、その過程で東大寺別当(住職)に就任。その後高野山を賜った後には、東大寺に灌頂道場として真言院を建立。ここでは平城上皇(桓武天皇の子)に灌頂を授けました。

このように空海は新しい仏教である「密教」を取り入れたバイオニア的な側面だけでなく、既存の権威や組織に対して対立することなく取り入れ、中に入り変革していく力を持っていたことがわかります。この姿勢は実は密教にも言えることなのです。

仏教では現世における全ては苦しみであるとし、これを「一切皆苦」といいます。であるから苦しみの原因を突き詰め、それらを生む原因から離れることを推奨してきたわけですが、それらから離れ、清浄な生活を送ることで悟りを目指すのが比丘の生き方であり、

いつてしまえば俗世での生活を否定するところから始まっているわけです。これを当時の状況に当てはめるのであれば、政治とのつながりの中で腐敗してしまった南都の仏教など切り捨て、距離を取って正しい教えへと衆生を導こうとなります。

一方で密教的な考え方をする場合、まず現実を否定することはありません。すべてを受け入れることが大切なのです。今ある世界を受け入れた先に、本当の幸せがあるのです。よく「清濁併せ持つ」という言い方をしますね。人間というのは正しい部分も間違った部分も両方持っているのだ。それを受け入れることが肝要であるというような使い方をしています。

しかし、これはちよつと間違っていて正確には「清濁併せ呑む」。仏教では清濁という価値判断から離れたところの真実を見出します。しかし、それは清濁という現実と全く違う場所にあるのでしょうか？私達が住んでいる今この場所とは違う世界にあるのでしょうか？いいえ、それは違います。今この場所にも真実があり、それは私達の中にもあるのです。ですから、すべてを受け入れることが大切なのです。清濁に拘ることは、かえって新しい清濁を生むことになって永遠に苦しみの輪廻から抜け出すことができません。

では、どうすればよいのか。それは観音様の前で手を合わせて真言を唱えることです。全てはそこから始まり、そこに終わります。観音様も真実と同じくどこか離れた場所にはいらつしやるのではなく今この場所、私達の中にいらつしやいます。そして、観音様の慈悲は決して私達の醜い部分を否定しないでしよう。私達の醜い部分、嫉妬や怒り、怠惰といった感情さえもすべてを包み込んでくれた上で、救いの道へと導いてくださいます。迷ったときこそこの実践を忘れぬようにしましょう。仏は私達とともにいらつしやいます。

合掌

南無日月光妙法蓮華経

*五月のラッキーカラー、暗剣殺、五黄殺(五月六日・六月七日)※一年通してのラッキーカラーは桜色です。

*暗剣殺、五黄殺とは凶方位の事で移転増築や旅行など控えた方が良い方位となります。

五月のラッキーカラー 緑 白 青 暗剣殺 なし 五黄殺 なし

【お知らせ】六月の勉勵会の日程・普賢光明寺(鎌倉) 六月三日(土) 四日(日) 六日(火) 午後一時より

機嫌賀支部(ホテルハーバ) 六月十八日(日) 小田原別院・六月二十五日(日) いずれも午後二時より。

① 大黒天祭を五月十四日(日) 午前十一時より厳修いたします。

② 弁財天祭を六月十七日(土) 午前十時より厳修いたします。別紙にてご確認の上、お申込みください。

③ 滝行の予定・五月二十一日(日) 六月十一日(日) 七月九日(日) 塩川滝 午前七時集合

六月二十五日(日) 七月三十日(日) 夕日の滝 午前六時 各駐車場にて集合 滝行、見学ご希望の方は前もってご連絡

ください。体験希望の方に行着の貸し出しも行っています。

④ 仏像教室: 五月 休み 六月二十五日(日) 十二時より